

研究課題 (テーマ)	助産師がとらえる、育児期を見据えた妊婦のヘルスリテラシーの明確化		
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	看護学部 母性看護学講座	助教	茂野由貴
研究結果の概要			
<p>情報があふれる現代社会において、健康に関する情報を適切に収集し、理解し、評価したうえで活用する能力である「ヘルスリテラシー」が重要視されている。母親がこの能力を発揮することで、自分自身や子どもの健康に関する適切な判断や行動につながり、不安やストレスの軽減、さらには産後うつ予防や適切な育児・養育にもつながると考えられている。</p> <p>母親は、出産直後から初めて経験することの多い育児を担うことになるため、不安や困難を感じやすい状況にある。そのため、育児を見据えたヘルスリテラシーは、育児が始まってからではなく、妊娠期から高めておくことが重要であると考え。そこで本研究では、妊婦にとって将来の育児に必要なヘルスリテラシーを、助産師がどのように認識しているのかを明らかにすることを目的としている。また、本研究を通して、妊婦のヘルスリテラシー向上を支援するための方向性について示唆を得ることを目指している。</p> <p>令和7年12月に富山県立大学「人を対象とする研究」倫理審査部会の承認を受け、A県内の複数の施設において分娩業務や保健指導業務を担当する助産師12名を対象に、インタビューによる調査を実施した。現在、得られたデータの分析を進めている。助産師の語りからは、妊婦の主な情報源がインターネットやSNSであることがうかがわれている。しかし、現在も分析を継続している段階であるため、本研究の具体的な結果については現時点では公表していない。</p>			
今後の展開			
さらに分析を進め、得られた結果と先行研究をもとに現代の妊婦の育児に必要なヘルスリテラシーの向上支援の方向性を検討する。			